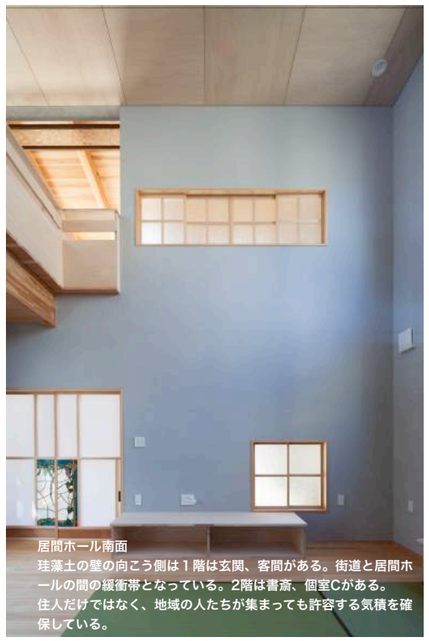
〈旧街道沿いのホールのある家〉

Atrium House along The Old Highway

所在地：東京都青梅市　　敷地面積：160.95㎡
建物用途：住宅　　建築面積：101.15㎡
主体構造：木造　　延床面積：168.07㎡
施工：岩田工務店　　設計期間：2016.01～2018.10
写真：佐々木慧　　工事期間：2018.11～2020.03

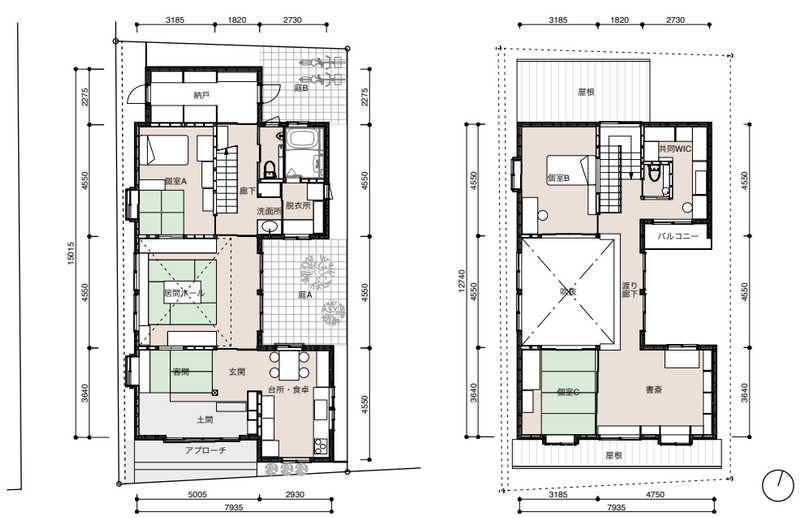
東京の旧街道沿いにある元商店の建替え計画。元商店は廃業しているものの近所の人がふらっと立ち寄ったり、挨拶を交わしたりと旧街道の街の風景を作り出しているように思えた。また、お祭りの際には店舗部分が親戚や友人、知人たちがたむろする場となり、ハレの日の風景も作っていた。街道沿いの集まる風景を保ちながら、住人が街道と適度な距離を取り、快適に生活できる建築が良いのではないかと考えた。
居間ホールと呼ぶ2層吹抜けた空間が中心にあり、東西面から多くの光が入り込み半分外のような明るさと大きな気積を持っている。南北面には各室が室内窓を介してつながっていてその明るさと気積を享受している。
このシンプルな構成は住人の増減や時間経過など色々な変化を許容し、街道と共に生きて行けるような強さが持てたのではないかと思っている。



居間ホール南面
珪藻土の壁の向こう側は１階は玄関、客間がある。街道と居間ホールの間の緩衝帯となっている。2階は書斎、個室Cがある。
住人だけではなく、地域の人たちが集まっても許容する気積を確保している。

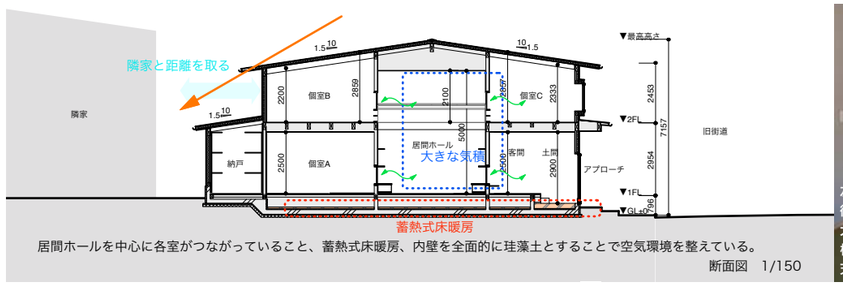
居間ホール西面
正面のサッシは既製品を並べ光を取り込んでいる。左右には各室が室内窓を介してつながっている。
天井はシナ合板が90°回転しながら張られている。
大きな気積の温熱環境を整えるために蓄熱式床暖房を採用している。
１階の床だけではなく、吹抜けを介して輻射熱が２階の床、天井まで届くようになっている。

居間ホール北面
珪藻土の壁の向こう側は１階は個室Aや水回り、階段がある。2階には個室B、共同WICがある。
住人は必ずこの居間ホールを通ってプライベートなスペースへ行くことになる。プライベートなスペースも
室内窓を介してつながっているため、関係は断絶しない。



1階平面図　1/150

２階平面図　1/150



居間ホールを中心に各室がつながっていること、蓄熱式床暖房、内壁を全面的に珪藻土とすることで空気環境を整えている。

断面図　1/150

２階の個室と書斎。右手には居間ホール。
すずりを兼ねた本棚は住人の蔵書によって埋め尽くされる予定。
欄間には旧商店で使用していたものを使っている。
天井は杉の構造パネルをあらわしで使い、屋根勾配が現れている。

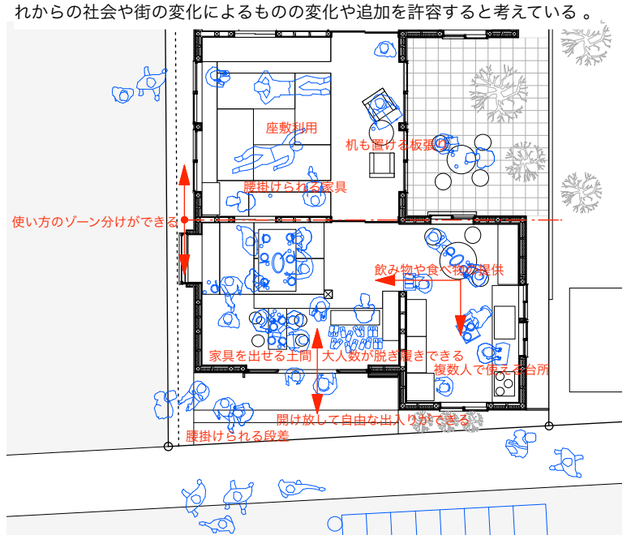
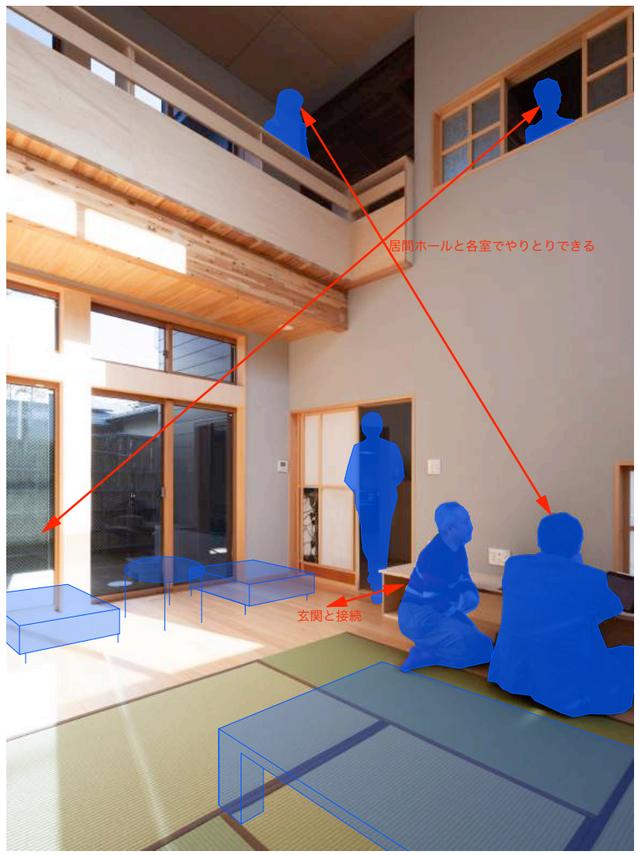
１階の個室A
正面の室内窓の向こう側は居間ホール。
シナ合板と見切り材を利用し、格天井のようになっている。

１階の玄関と客間。奥には台所・食卓。
左手の障子の向こうは居間ホール。
街道に面した玄関はお祭りのときなどは
大きく開くことができる。
格子戸によって日射や視線をコントロール。
天井は廻り縁材を流用した格子天井。

■旧街道との関係
街の構成に馴染む平入りとしている。玄関の格子戸、4枚サッシの開閉によって、プライバシーや日射をコントロールすることができる。全開放することもできるようになっているため、使い方の変化に合わせて、旧街道への開き具合を調整できるようになっている。

南立面図　1/150

2階の渡り廊下
居間ホールの上部を通過して、書斎にたどり着く。
個室Bの室内窓には旧商店で使われていた化粧ガラスを使った建具が
入っている。天井を低く抑え、本棚が手すりの代わりとなっている。

居間ホール
左手には庭Aがあり、居間ホールと隣接している。
ブリッジ状の廊下が2階の室をつないでいる。

■変化への対応
大人３人が生活する少し特殊なこの住宅では、居間ホールはニュートラルな場所となるようにしている。
ニュートラルな空間は将来的な生活の変化や家族構成の変化、この住宅の用途の変化にも対応する。座敷としての利用、椅子と机での生活など使う家具の変化に対応できるように、シェアハウスとしての利用、玄関ホールと連動した小商い、お祭りの際には親族や街の人達の集会所のような役割と様々な用途の変化も想定をしている。
居間ホールは各部屋とつながる室内窓から様子が感じられ、その他の室は仕上げを変えて、住宅内でのパブリック感を高めている。
和洋折衷の空間は旧商店からの古いものと新築でつくられた新しいものを違和感なく同居混在させる。過去から現在が同居混在できているということは、これからの社会や街の変化によるものの変化や追加を許容すると考えている。